

活力ある地域づくりに向けて 茅葺きの集落景観保全活動を核とした地域づくり

新潟県柏崎市

新潟県柏崎市高柳町荻ノ島集落では、地域ぐるみで茅葺き屋根家屋で構成された農村の景観保全活動を通じて新しい地域づくりに取り組んでいます。当センターでは「柏崎市地域活性化調査業務」を受託し、この取り組みを支援しておりますが、その現状をご紹介します。

地域づくりの核となっていた茅葺き家屋の減少

新潟県柏崎市高柳町荻ノ島集落は、田んぼを取り囲むように茅葺き家屋が立ち並び、全国的にも珍しい茅葺きの環状集落となっており、その景観の美しさで知られる農村地域です。この地域では、旧高柳町の「じよんのびの里づくり構想」に基づいて、平成5年に茅葺き家屋の宿泊施設「荻ノ島かやぶきの里」を開業し、売り上げの一部を各家庭の茅の葺き替え費用の補助に充てるなど、地域ぐるみで茅葺きの農村景観を保全してきました。

また、都市農村交流事業の実施やテレビ番組や映画のロケの誘致、野菜・米の直接販売など、茅葺きの景観を利用して様々な形で地域づくりを行ってきました。しかし、少子高齢化が進み、荻ノ島の

代表的な景観である環状集落は、かつて20棟以上あった茅葺きの家屋が今や11棟にまで減少し、しかも、そのうち4棟が空き家となつてしまつています。

こうしたことから、地域づくりの核としてきた茅葺きの農村景観をいかに保全していくかが、現在の荻ノ島集落の大きな課題となつています。

最初の取り組みは茅葺きの集落景観の保全

茅葺き家屋の減少という大きな課題を抱えた荻ノ島集落の今後の地域づくりの方向性を検討するために、平成23年度に、柏崎市からの委託を受け、荻ノ島集落の住民を対象としたワークショップを開催しました。

その中で、荻ノ島集落の今後の地域づくりの課題として「多様な担い手による地域づくり」、「茅葺きの集落景観の保全」、「地域の経済循環の仕組みづくり」の3つが挙げられました。このうち、最初に進めることにしたのは「茅葺きの集落景観の保全」の課題の克服でした。



茅葺き家屋修繕に取り組む若者たち

検討の結果、その手法のひとつとして挙げたのが、地域外の人材の活用でした。この地域には自らの保全活動を行う「担い手」がいなかったため、これを補う手法として、外部の人材を活用することとしたのです。

具体的には、地域外の建築専門家と連携を図り、若手の木工職人や大工、木造建築や伝統的建築物を学ぶ学生などの実地研修の場として、空き家となつている茅葺きの家屋を提供していただくことにしました。

そのことによつて地域外の人材と荻ノ島集落の住民とが連携して茅葺きの空き家の改修を進めると同時に、その過程で得た知見をもとに集落景観の保全を図る仕組みを構築することとなりました。

若手の大工や学生などとの連携でワークショップを開催

連携先として挙げたのは次の2つでした。

ひとつは新潟県内や周辺県の建築組合等が主催する『東京の大工塾OB会』や『東京建築カレッジ』といった若い大工や大工を志す人たちなどの人材との連携です。彼らには、伝統的な建築技術を活かす場を求めるといふニーズがありました。

もうひとつは大学の木造建築系の研究室です。現在、建築系の一部の大学が夏休みを使って、木造建築の現場体験と地域との交流を行う「木匠塾」というプログラムを行つていま



茅葺き家屋が立ち並び
荻ノ島集落



説明を熱心に聴く学生たち

すが、研究の一環として実施されているものです。
 こうした若い力を活用した連携によつて「茅葺き景観保全」や「茅葺き家屋の維持保全」を進めることができました。
 その経緯を踏まえ、平成24年7月27日(金)～29日(日)に、荻ノ島集落にて若手大工、木工職人、木造建築を勉強する東京の芝浦工業大学の大学生などを対象に「第1回修繕ワークショップ」を開催しました。
 ここでは、大学教授や木造建築の専門家による指導のもと、茅葺き家屋の特徴を理解しながら、実測調査や図面の作成などを中心に行い、それぞれの修繕作業に向けた様々な課題を抽出し、その上で、修繕の方向性や活用の方針などが検討されました。特に、利活用の方針として、定住希望者への

ワークショップの様子



ワークショップでの熱心な議論

「賃貸物件」としての活用や、「ギャラリー」としての活用など、具体的な方針も提起されることとなりました。
 このような専門家や実務者、建築系学生などと地域の連携によつて「景観保全」に取り組む例は全国的にも珍しく、今回のワークショップにも取材に訪れました。
 10～11月には、第2回のワークショップが予定されています。
 今年度は、ワークショップの開催を通じて、様々な課題を検証し、次年度以降、具体的な修繕の成果を挙げていくためにも、継続的な「仕組み」の確立を目指すことが必要となります。
 います。
 そのためには、具体的な成果を挙げるための実行体制をどのように構築していけばよいかを模索しながら進めていくことになっていきます。

電源地域 振興センター 事業の紹介

今回紹介した荻ノ島集落の取り組みは「茅葺きの集落景観の保全」という課題に対するものですが、今後、克服しなければならない課題として「ワークショップの継続的な仕組みの確立」や「実行体制の構築」などが挙げられます。電源地域振興センターでは、こうした課題解決をお手伝いするためのメニューを用意しております。

単に「地域経済の活性化」と言っても、解決のためには地域問題の原因究明から、問題点の改善、将来に向けての推進計画策定、実際の事業化計画策定と多くの段階があります。
 また、こうした計画づくりからの取り組みもあれば、ものづくりからの取り組みも盛んに行われています。特に近年は、地域資源を最大限に活用した特産品、ひいては地域そのもののブランド化に取り組みうとする動きも珍しくありません。
 しかし、これについても競合する産品や産地との明確な差別化、ブランド化へのプロセス、継続的なブランド価値向上策など、考慮しなければならぬポイントは多々あります。
 電源地域振興センターでは、これまでの地域振興に関する豊富な調査経験を活かし、電源地域の活性化につながるべく、各種の調査を行い、地域の課題解決のための方策提言づくりなどの支援を行います。

調査には、まず総合的・広域的な視点から地域振興を図る各種の計画づくりをする「計画策定調査」があります。次に、電源地域の物産・自然・文化資源などを最大限に活用した特産品開発に向けた調査があります。現状分析や、先行事例分析を踏まえて、開発企画・流通チャンネルの検討・生産・販売等の体制づくりを検討するとともに、事業化に向けた具体的な提言を行うなどの「特産品ブランド形成調査」です。最後に、それ以外の「その他地域振興に関する調査」になります。調査は大きく分けてこの3つに分かれます。
 どの調査テーマについても皆様が抱えている課題解決に向け、確実に取り組めるよう解決策を提案いたしますので、ぜひご活用ください。

■窓口は地域振興部 調査課
 ☎03-6672-7306
 eメール: chousa@dengen.or.jp
 となります。
 お気軽にお問い合わせください。